

短期大学における FD 活動オンライン化の実践と考察 —小規模校における発展的オンライン FD 研修の取り組み—

Practice and Study of Online FD Activities at a College -A Case Study of Developmental Online FD Training for Small Schools-

澤崎 敏文*¹

SAWAZAKI Toshifumi*¹

*¹ 仁愛女子短期大学

*¹jin-ai Women's College

Email: sawazaki@jin-ai.ac.jp

あらまし：コロナ禍を経て様々な場面でオンラインが活用されることもあたり前となった今、授業だけでなく研修等でもオンラインを活用する場面が増えてきた。本学でも FD 活動をオンライン化して継続的な授業改善を実現してきたが、代替手段として始まったオンライン化から 4 年が経過し、現在では、より効率的・発展的手法として定着している。今回は、本学のような小規模校における FD 活動オンライン化のメリットや課題について、これまでの実践を踏まえた考察をおこなう。

キーワード：オンライン、FD、Faculty Development、授業改善

1. はじめに

FD が義務化されて久しいが、本学では様々な場面で FD 活動にオンラインを活用している。それらは、コロナ禍における代替かつ継続のための手法として始まったものではあるが、物的・人的・時間的費用をかけずに FD 活動の質を担保しつつ、本学のような小規模校でも負担なく継続できるための手法としても評価されつつある。

そこで本稿では、この 4 年間本学が FD 活動のオンライン化として具体的にどのような活動を実践してきたかを分類することで、本学のような小規模校でも無理なく実践できる FD 活動のあり方がある程度標準化・共有化できるのではないかと仮説のもと、そのメリットや課題を考察する。

2. FD 研修等のオンライン化

オンライン化の中心は、授業でも利用している Learning Management System (以下、「LMS」と言う。) を活用して FD 研修をオンデマンド型研修としたことであるが、具体的な実践内容の主なものを次の 3 点に分けて紹介したい。

2.1 内製化された動画視聴による FD 研修

オンラインでの FD 活動の中心となるのは、LMS を使って配信されるオンデマンド研修動画の視聴である。配信される内容は、本学教員の授業風景の一部紹介と、授業等の工夫などに関する当該教員のインタビューであり、質問する側も同僚となる教職員が務めている。また、動画は撮影から編集等まで制作の全てを FD 委員会担当教員で内製している。「わたしの授業」というシリーズとして、これまで 2021 年度から 4 年間で 12 名の教員の協力により研修動画が作成された。(図 1)

動画の配信方法は、学生のオンライン授業同様に LMS と YouTube 限定公開機能により配信。視聴後は

研修課題として動画に対する感想やアンケート等のフィードバックを残す形式としている。また、配信は専任教員だけでなく全ての非常勤講師、職員を対象としており、SD 研修の一環としても機能するように設定した。(図 2)

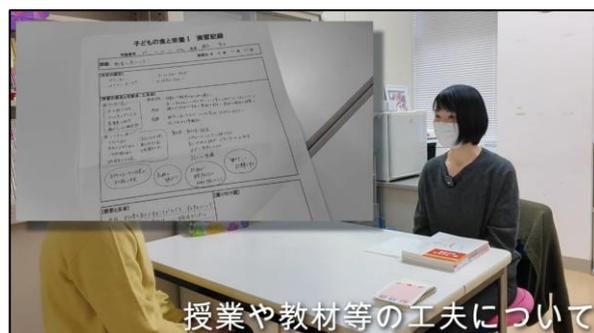


図 1 研修動画「わたしの授業」より



図 2 LMS の FD 研修ページ

2.2 LMS を活用した諸手続きのオンライン化

毎回配信される研修動画では、LMS 上で簡易なアンケートと感想・意見等が収集されるが、アンケート結果や意見を LMS 上で即時公開し、教員同士でリアルタイムに共有できるようにすることで、迅速に他の方々の意見を比較できるようにした。

また、学期ごとに教員が作成する授業改善計画も LMS 上でオンライン化して、過年度のものを比較できるようにしている。これは、以前からもワード・エクセル等を用いて提出していたものであるが、LMS 上で記録・保存することで、アンケートの集計結果や改善点・反省点等の意見も匿名で全教員の意見がリアルタイムに閲覧できるようになった。こうすることで、他者の意見を取り入れやすくなり、多面的な授業改善を実践できるような環境を整えた。これらは、オンライン化された研修だけにとどまらず、対面実施されている他の研修や公開授業でのアンケート・意見収集でも同様である。(図3)



図3 オンライン化された授業改善計画

2.3 他部署主催の関連研修の共催と拡充

以前からおこなわれてきたことでもあるが、他部署で実施される様々な研修と連携して、できるだけ多くの教員が参加できるような機会を確保した。主なものとしては、情報メディア関連の担当部署と共催で教育情報システム (LMS, Teams 等の活用法) に関連した研修会を開催することで、授業改善につながるだけでなく、授業準備も含めたオンライン化による効率化、いわゆるタイムパフォーマンスの改善にもつながっていく取り組みを行った。

3. オンライン化によるメリット

FD 活動のオンライン化により考えられるメリットは多岐に渡るが、主なものを以下のとおり3つにまとめた。

3.1 FD 研修の拡充と自由度向上

前述のようなオンライン化の取り組みによって変化したことは、FD 活動の自由度が向上したことであ

る。従前は集合型研修であったため、参加において物理的な制約があったが、オンデマンド型オンライン配信動画による研修であるため、教員は各自都合のよい時間・場所で、いつでも何度でも視聴可能となった。これらは、学生の授業におけるオンデマンド配信型授業の利点とも合致する。また、対面での集合研修と違い、オンラインになったことで非常勤講師の方々にも広く参加して頂くことが可能となり、FD 活動の幅が広がった。さらに、研修は教員だけでなく職員にも開放しているため、教職員間の教育環境に関する理解が深まり、大学全体での FD・SD 活動へと繋がり、組織における一体感の醸成にも寄与していると感じている。また、教員の授業ノウハウなどが詰まった映像がアーカイブとして蓄積されていくこととなり、映像作成に参加した教員自信も、自己の授業の振り返りに役に立ったとの声もある。

これらメリットの一方で、動画編集に関する技術的なノウハウの伝承や撮影協力してくれる教員の確保などの課題もあり、継続に向けた課題の検討も必要となっている。

3.2 参加状況等データの可視化

オンライン化したことで、様々な情報を容易に可視化・共有できるようになり、FD 活動の質が変化したと感じている。前述した研修動画視聴に際しての意見等もリアルタイムに共有することで、教員同士の気づきや得られた知見を授業設計に反映しやすくなったとの声をアンケート等からも得ている。また、オンライン配信動画も YouTube アナリティクス等による視聴分析が配信ごとに可能になり、学生の授業配信同様に、次回動画作成のための客観的な視聴データとして取得ができるようになった。加えて、FD 委員会の管理上のメリットとしては、教員の研修受講状況や授業改善計画の提出状況、暦年管理等も容易になり、アンケート結果や各教員の記述された情報もデータ化されたため、後述する学内での FD 報告書作成時等にも、そのままデータを活用できるようになった。

3.3 コスト削減

手作業での事務処理がオンライン化によって大きく削減された。その効果は費用的な側面だけでなく時間や人的コストにも表れている。例えば、本学では毎年 FD 報告書を作成しているが、オンラインで蓄積されたデータをそのまま活用して報告書化できるため、とりまとめ・編集等の作業時間がかからず、作業量や予算的にも大きなメリットとなっている。

4. まとめ

FD 活動は、その質が担保されることはもちろんであるが、参加する教員が無理なく継続できる環境を整えることが必須であり、本学のような小規模校だからこそ積極的にオンライン化を推進することの重要性を再認識できた。今後は、これらノウハウを大学間で共有できる手法を模索したいと考える。